

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 107 号

平成 23 年 3 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

<http://encounter.agape.gr.jp/>

相沢良一

「黒潮の神学 下巻」(黒潮社)より(10)

権威の所在

かつての教育勅語には「国体の精華」ということがうたわれておりました。万世一系の天皇が日本国を統治する、これが万邦に比なき日本の国体ということであり、この皇運を扶翼するために、一旦緩急あれば義勇公に奉じ、大義親を滅し、身を鴻毛の軽きに比すことが、日本国民の無上の光栄であり、また義務でもあったのであります。

これが昭和 20 年 8 月 15 日を境として、これまで教えこまれてきたことが、信じこんできたことが、みな虚偽であり、われわれは騙されてきたのだ、ということになってしまいました。...

戦後、新生日本の進むべき道として、その決意を全世界に宣言したものが日本国憲法でありました。この日本国憲法が国是となっているのですから、日本国憲法の理念に従って政治が行われるなら、ここに国民の精神的基盤が形成されるはずだと思うのです。ところが今日の政治の動向は、この日本国憲法の理念や理想とは逆行をしているのであります。

日本国憲法の前文に「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相

互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚する」とあります。人間相互の関係を支配する崇高な理想とは「人間の尊重」ということであります。人間は人間たるが故に尊重されなければならない。これこそ人類を支配する崇高な大理想であり、またキリスト教の精神もこれにほかならないのであります。この意味において、わたしたちはアメリカが今なお、ベトナムにおいて為している戦争行為を、絶対に許すことができないのです。

わたしたちは日本国憲法において、非武装と戦争放棄を宣言したのですから、平和を愛し、平和のために生き、平和のために殉ずる、という精神的基盤が形成されるなら、この新しい権威が確立をされるはずだと思ふのであります。

わたしたちキリスト者は、なによりも聖書において明確に、わたしたちの心のよりどころを示され、この人生を主体的に生きる生き方を教えられているのであります。

使徒パウロは、

「わたしたちは、生きるも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。だから、生きるにしても死ぬにしても、わたしたちは主のものなのである」
(ロマ書 14 の 8)

と申しました。...

主イエス・キリストのために生きるということは、なによりも、自分自身を満足させるために生きるのではなく、また人の言いなりになって生きるのでもなく、隣人を愛し、地の塩、世の光として生きるということであり、...

「わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神のみ子を信じる信仰によって生きているのである。」(ガラテヤ書 2 ノ 10)

これがわたしたちの生き方であり、ここにこそ、わたしたちの生のよりどころ 権威の所在 があるのであります。 (67・8)

まんまる山のクリスマス（童話） 相沢悦子

あるところに、テッペンがまーるい、まーるいお山がありました。
まーるいお山のうしろから、まーるいお月さんが顔を出しました。

ちょうどそのころ、お山の動物たちが広場へあつまってきました。
...それもそのはず、今日はうれしいクリスマスなのです。...みんな
うれしそうにささげものをもって、広場へのぼっていきます。そん
なたのしいなかで、一匹だけションボリさみしそうにしている動物
がいました。おめめの赤いかわいらしい兎のミミちゃんです。...

（ミミちゃんはプレゼントを）あちらこちらと探したので、知らない
間にずいぶん時間がたってしまいました。さっきまで、頭の上であ
んなにニコニコしていたお月さまが、あちらのさんかく山にサヨナ
ラしようとしています。おどろいたミミちゃんは、パーティが心配
で、いちもくさんにまんまる広場までかけ上りました。...あんなに
楽しみにしていたパーティはもう終わってしまったのです。だあー
れもいません。

「あっそうだ。イエスさまがいちばんよろこびなさることは、その
ひとつもっているいちばんよいものをささげることだって、象のお
じさんが言ったっけ。ぼくのもっているいちばんいいものは、なん
だろう。なんにもないナ。...ぼくができることは、うたったり、お
どったりすることぐらいだな。そうだ!!うただって、おどりだって、
いっしょうけんめいやれば、きっとイエスさまはよろこんで見てく
ださるにちがいない」。

ミミちゃんはさっそく、かわいらしい声をはりあげて、さんびし
ました。「きよしこの夜星はひかり」、それから「星のひかったその
晩に」も、「ジングルベル」も、「出た出た月」も、知っている歌を
ぜんぶうたいました。それから、こんどはダンスです。ソソラソラ
ソラ うさぎのダンス、みみにはちまき、ラッタ、ラッタ、ラッタ
ラ ...すっかりおどり疲れたミミちゃんは、とうとうツリーにもた
れてねむってしまいました。たのしいたのしい気持ちで朝までぐっ

すりねむりました。

(67・12)

マラソン雑感

さいきんは、海辺ぞいの 9 キロのコースをゆっくり走るようにしている。...1 時間近く走って帰ると、下着のシャツは汗びっしょりになる。もっとも「黒潮」を配達するだけでも、下着のシャツは、いつも汗びっしょりだ。...

新約聖書ローマ人への手紙第 10 章を読むと、

「しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞く事があるか。つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか。「ああ、麗しいかな、よきおとずれを告げる者の足は」と書いてあるとおりである。(14 15 節)」

と、このように記されている。「ああ、麗しいかな、よきおとずれを告げる者の足は」とあるのは、旧約イザヤ書 52 章 7 節からの引用であり、そこには次のように記されている。

「よきおとずれを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝え、救いを告げ、シオンにむかって「あなたの神は王となられた」と言う者の足は山の上にあって、なんと麗しいことだろう。」

マラソンはもと「よきおとずれ」であったのだ。前 490 年、アテネ北東のマラトンでギリシヤの名将ミルティアデスがペルシヤ軍を破ったとき、フィリビッデスという伝令がギリシヤの勝利を知らせるため、アテネまで約 40 キロを走り続け、「われ勝てり」と告げたまま、息絶えたという故事にもとづく。

1889 年近代オリンピック発祥と共に「マラソン」と名付けられた。ギリシヤの使者は 40 キロを走り続け「われ勝てり」と叫んだ。まさに「ああ、麗しいかな、よきおとずれを告げる者の足は」であった。我らの主イエス・キリストは、主の日、墓を破って、よみがえりたまいぬ。これが福音、すなわち喜びの内容ではないか。主イエス・キリストの十字架と復活というこの福音を宣べ伝えるために、われらは足腰を鍛えなければならないのである。足腰というのは、信仰生活を言うのである。 (79・3)

わが人生の美しい夕焼空

私は先日、東京の教会でご用をいたしてまいりました。その教会の牧師先生のおばあさんは97歳でした。3年前までは、とても元気で電話の取り次ぎもできたのですが、3年前不図したことで、自分は電話の番もできないと思ってから、にわかに老衰してしまったということでした。それでもキチンと礼拝には出ておられました。どんなに年をとってからも、自分はまだ周囲に役立っているのだというその自信と喜びが、老化を防ぐ生きがいとなっていることが、これでおわかりになっていただけたらと思うのです。...

イエスさまのお弟子のパウロという先生は、このことを「目標をみざして走る」と申しました。目標をめざして走る。すなわち、前向きの姿勢で残る生涯を生きてゆくなれば、夕焼空が美しく映えるように、わたしたちの人生の終わりは、必ず美しく照り映えるはずであります。...

アデナウアー首相は、...彼は健康のヒケツとして、タバコはのまない、いつでも仕事をたくさん持っている、そして時々腹を立てる、とこの三つをあげたということです。

マタイ福音書第6章の終りに

「だから何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って
思いわずらうな。これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。
あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存知である。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である」

との有名なキリストのおことばが記されております。

これを要するに取越し苦勞をしないということです。きのうのことはどうしようもない。あすのことはまだわからない。きょう一日を、いまというこの時を大切にして、一所懸命に生きる。こう生き方がつもりつもって、わたしたちの老後を豊かにしてくれるのではないのでしょうか。

(81・8)

一生懸命生きましょう

永井次代さんの『一生懸命生きましょう』は、その題名の通り、信仰をもっていっしょうけんめい生きた老婦人の記録である。(お子さんが、元文相の永井道雄氏)

「八つ手は露のあるとき、一番綺麗である。太陽は霧のあるとき、色を出す。人は悔いの涙を流すとき、一番美しく真実である。うなだるる花に宿かる雨後の月 詠人不知」

「讚美歌 301 番には、「山べに向かいてわれ目をあぐ」というのがある。山べにとは大きな目的物、すなわち神をさしている。同時に、山のように高い理想を仰ぎ見ることを教えている。「山べにむかいて目をあげることによって、胸中へ神からの支えの力が流れ込んでくる」。

「毎日をつつがなく暮らしているときはかえって気がつかないが、時に心がふさがれると、即座に生きる力も半減することがわかり驚かされる。どんなに健康な肉体であっても、人間は身体だけで生きられるものではない。明日への希望が今日の生活の言動力となり、活力となっていることをしみじみと感ずる。逆に今日を大切に生きることが、明日への希望につながることにもなると思う。

「人間は生まれる時も一人であり、死ぬときもひとりである。たとえ家族や友人たちと共に生きていても、心底にはしっかりと一人立ちの決意がなくてはならないと思う」。

最後の 3 月 29 日「時の小父(おじ)さん」という楽しい童謡を紹介する。「昔、牛込の富士見町教会で子供のための集まりがあった。童話家の巖谷小波先生のお話などがあった後に、参加者一同に面白い歌を教えて下さった。...

時の小父さん おかしなおじさん
年がら年中スタコラ サッサ
待ってくれ 小父さん小父さん 待って
いくら叫んでもなんぼう頼んでも
お耳は聾で お足は達者」。

(82・6)

立ちて歩きなさい

彼は何かをもらえるのだらうと期待して、ふたりに注目していると、ペテロが言った、「金銀はわたしにはない。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。」(使徒行伝 3・5-6)

けさ、わたしは星野富弘氏の「筆を加えてつづった生命の記録」『愛深き淵より』を皆さんに紹介をしたいと思い、ここに持って参りました。

星野富弘氏は昭和 21 年 4 月生まれ、群馬大学教育学部保健体育科を卒業。高崎のある中学校の体育教師として赴任 2 ヶ月後、クラブ活動の指導中、誤って頭部より転落、手も足も体も全く動かなくなっていました。...

こうした言語に絶する苦痛のうちに、9 年間に渡る不治の闘病生活が始るのでした。...

そのような時、大学時代の 2 年先輩の米谷さんという人がお見舞いに来てくれました。米谷さんはクリスチャンでした。帰りがけに、米谷さんは「お祈りさせてください」と言ったのです。... それから米谷さんから聖書が贈られてきました。... 牧師が帰ったあと、私は敵陣に突っこむような一大決心をして聖書を書見器につけてもらった。... 牧師が紙をはさんだところは「ローマ人への手紙」というところだった。星野さんの目を釘づけにしたのは「それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生みだし、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである」ということばでした。「私の薄暗い明日に、かすかな光がさし込んでくるような気がした。信じられなくても、信じたいと思った。」と星野さんは書いています。こうして星野さんは洗礼を受け、クリスチャンになるのですが、それと相前後して筆を口にくわえて字を書き、花の絵を書き始めました。星野さんのこのような詩画集が「風の旅」という美しい本になりました。みなさん、私たちもやらなければならないのです。...

(83・4)

歌集「形相」によせる

南原繁先生の歌集「形相」(昭和23年3月刊行)を先生からいただいたのは、昭和43年の復刻版だった。...この「形相」(けいそう)がこの度、岩波文庫におさめられたので、読み返してみて、ますますその感動を新たに感じた次第である。...

齊藤茂吉は、前掲の書評(昭和23年5月「日本図書新聞」)で次のように述べる。

「心深く沈潜すれば、歌はおのずから思想的となる。即ち、思想的抒情詩である。...そして貫くものはヒューマニズムであり、基督教的信念である。...この切実な詠歎もまさにこの集の名にふさわしいのである。」

われわれは、この「形相」をとおして南原先生の学問、信仰、時局に対する政治学者としての洞察、あるいは母に対するその孝養、師に対するその尊敬、友に対する友情、自然に対するその愛情、等々をじゅうぶんに読みとることができる。

南原繁著作集全10巻を読破しなくても、この「形相」1冊に先生の全貌は尽くされていると思うのである。昭和16年12月8日、先生は「人間の常識を超え学識を越えて、おこれり日本世界と戦ふ」と詠まれた。昭和43年5月の復刻版の『まえがき』には、次のようにある。

「当時は、民主主義の今の世においては想像もできないほど、戦争はもとより、時の政治について、批判は全く抑圧されていた。...これらの短歌は、顧みて微かながら時代を憂い、嘆いた市民の声であったかもしれない。同時に、一個の凡夫として人知れず内に迷いと苦悩 自分自身との闘いがなかったわけではない。その間、著者を救ってくれたのものは、美しい自然と永遠なるものへの思慕であった」。...

先生が大島に来られた時、書いてくださった「さもあらばあれわれ神を信じつつ、ありのままなるいのちを遂げむ」は、昭和11年に詠まれたものであった。

(84・6)

祈禱の戦場

「神はみこころをなさんために汝らのうちにはたらき、汝をして志望（こころざし）をたて、業を行はしめ給へばなり」（ピリピ書2の13・文語訳）とあります。志は士の心であり、何よりも私たちクリスト者の心であると申すべきです。この意味において、キリスト教とは志の宗教と申すべきべきであります。わたしたちは志を与えられ、それを実現するために祈らなければならないのであります。

わたしは手紙を書く際、この手紙が受け取る方々に慰めと、喜びと、力とを与えることのできるように祈っているのです。「黒潮」を配達するさいには、まず会堂に赴き、そこで祈りをささげ、さらに祈りつつ戸毎に配達をいたしておるのであります。...

祈禱の戦場においては、祈りは召命と結びつかざるを得ません。イザヤ書第6章は、預言者イザヤの召命の記録であります。

「わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時、わたしは言った。「ここにわたしがおります。わたしをつかわしてください」（イザヤ6の8）

かくしてイザヤは、祈禱の戦場において深く罪の赦しを経験すると同時に、預言者として立たしめられたのでした。使徒パウロの経験も同じでありました。彼は始めは教会の迫害者でした。（使徒行伝9の3-12）お互い祈禱の戦場において、きのうの敵は今日の友とせられたのでした。アナニヤの来訪と祈りによって、迫害者サウロからキリストの使徒パウロが誕生したのでした。

「彼はいま祈っている」、この聖句がこの年のわが大島元村教会の年間標語であり、この新しい年、わたしたちはなによりも、祈る教会、祈る信徒、祈る牧師となるべく志を与えられたいのであります。

...

わたしたちの不断の祈り、即ちわたしたちの信仰生活なることを銘記し、本年は、さらに祈りの実践に励んでいただきたいのであります。

（85・2）

主を待ち望むもの

イザヤ書 40 章は、第 2 イザヤと呼ばれている無名の預言者の預言のことばであります。...

この第イザヤの預言の第一声は、

「あなたがたの神は言われる、「慰めよ、わが民を慰めよ、ねんごろにエルサレムに語り、これに呼ばわれ、その服役の期は終り、そのとがはすでにゆるされ、そのもろもろの罪のために 2 倍の刑罰を主の手から受けた。」

呼ばれる者の声とする。「荒野に主の道を備え、さばくにわれわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、高低のある地は平らかになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、

人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである」(1-5 節)

でした。...このイザヤ書第 40 章の終りが「ヤコブよ、何ゆえあなたは、「わが道は主に隠れている」と言うか。イスラエルよ、何ゆえあなたは、「わが訴えはわが神に顧みられない」と言うか。あなたは知らなかったか、あなたは聞かなかったか。主はとこしえの神、地の果ての創造者であって、弱ることなく、また疲れることなく、その知恵ははかりがたい。弱った者には力を与え、勢いのない者には、強さを増し加えられる。年若い者も弱り、かつ疲れ、壮年のものも疲れ果てて倒れる。しかし主を待ち望むものは新たなる力を得、鷲のように翼を張って、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」(27 31 節)

であります。...

信仰生活とは、読んで字のごとく、信じ、仰ぎみる生活であります。このような私たちの信仰の対象は、十字架の主イエス・キリストご自身にほかならないのです。...

信仰とは自分を見ることではなく、十字架の主イエス・キリストを仰ぎみることです。このように主なるイエス・キリストを仰ぎみることによって、キリストにある自分を発見することができるのです。...

(93.10)